

新たな感染症とともに



「当たり前っていいね。」

これは、ある小学校の何気ない日常の場面で、子どもが呟いた言葉だそうです。各学校では、子どもたちの思いや願いに心を寄せながら、『感染対策』と『子どもたちに日常を取り戻すこと』のバランスを模索する日々が続いています。

去る6月15日、学校から寄せられた質問を基に、第2回対策検討会議を開催しました。その内容について報告します。



皆様の疑問や不安にお答えします ※Q1～Q10は、VOL.1～2に掲載されています。

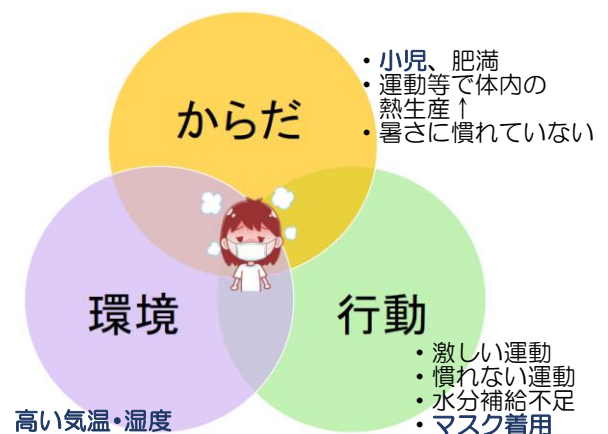
Q11 湿度・気温ともに急上昇し、熱中症が心配です。登下校時に必ずマスクは着けないといけないのですか？

検討会議だより VOL.2 でもお伝えしましたようにこれまで学校では、マスク着用時の熱中症リスクを考慮し、子どもたちに「人との距離が十分にとれている場合や、息苦しいと感じたときは、マスクを外してもよいこと」を指導してきました。

右の図は、熱中症が発生しやすい条件を示したものです。「小児」「高い気温・湿度」「マスク着用」と、すでに3つの要因がそろっています。

その上、実際の子どもたちは、「雨合羽を着ての登下校」「水筒のお茶を飲み干し、重い荷物を背負っての下校」等、大人の目が届きにくい登下校時に、たくさんのリスクを背負っているのです。

熱中症発生の3大要因



これらの状況を踏まえ、本検討会議では、「登下校時にマスクの着用を求めない」こととしました。

～登下校時にマスクの着用を求めない理由～

- ① 気温や湿度が変動しており、熱中症発生のリスクが高いこと
- ② 3密が重ならない屋外であること
- ③ 現在、地域の感染が落ち着いていること

- ・各学校では、咳エチケット、登下校時のルール等についても改めて保健指導を行います。
- ・体育の授業や外遊びの時など、マスクを外す場面が増えると、落としたり、装着の際にひもが切れたりすることも考えられます。予備のマスクについても準備をお願いいたします。

☆世界の学校再開☆



デンマーク

デンマークは、ヨーロッパの中でもいち早く学校再開をした国です。再開した4月中旬には感染のピークは越えてはいたものの、保護者から「子どもたちをモルモットにするな」と批判があったようです。

6月に入っても特に感染者は増加しておらず、音楽の授業をはじめ、屋外を利用した授業を行っています。さらに、授業中は一切マスクを使用せず、距離を重視した感染対策を行っている国でもあります。現在まで新規発症者数の増加は認めておりません。

フランス



フランスでは、5月11日に一部の中学校の再開とともに都市封鎖が解除されて以来、約40,000の小学校が再開しました。フランスは教育担当大臣が率先して学校再開を進めた国です。「学校閉鎖は社会的緊急事態」という表現を用いて、子どもの教育を第一に考える土壌があるようです。未就学児、10歳までの小学生はマスク着用の義務は無いようです。学校再開後、2週間ほどで学生など学校関係者70人ほどの感染増加が起きました。当然、大騒ぎになったのですが、学校閉鎖はせず、6月現在、感染は抑制されています。



ニュージーランド



ニュージーランドでは、強いリーダーシップを発揮した女性首相のもと、国が一丸となって厳しいロックダウンを行い、各国から賞賛されました。現在、アラートレベル1という最も弱い制限となっています。5月中旬頃から新規発症者がほとんどいなくなりました。

学校再開には根強い反対もありましたが、移行期間を設けて現在は学校を再開しています。社会全体として、基本的にレベル1では健康な人はマスク不要となっていますが、感染は抑えられています。

感染者がけた違いに多く、死亡率の高いヨーロッパでも、各国の対応は様々です。9月まで学校閉鎖を続ける国もあります。引き続き各国の状況や報告を注視しながら、感染対策を検討していきます。

市内各校においても、様々な感染対策を行い、各学校の実態に応じて状況を見ながら対策の緩和を進めています。本対策検討会議としては、基準となるものを示しつつ、各校の取り組みを尊重し、一様である必要性はないと考えています。

QRコードで読み取っていただくと、詳しいプレゼンテーション資料
「新型コロナウイルス感染症における学校感染対策」をお読みいただけます。
[http://www.tump.jp/office/exam/COVID-19\(2\).pdf](http://www.tump.jp/office/exam/COVID-19(2).pdf)

